



教皇様の聲

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticano の転載許可済
©1986

発行所
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
☎(0797)31-3452

《待降節》

神の訪れ

神の秘義

1 生ける神のおことば。待降節とは何でしょうか。周知のとおり、教会の典礼暦上、続く四つの日曜日を含む、主のご降誕という大きな祝いに向けての準備期間を待降節と呼びます。

この待降節の期間中、もう一つの大祝日、無原罪の御宿りが祝われます。神の御子の託身(受肉)の秘義に深いかわりのあるできごとです。待降節とは典礼のしるしであり、また典礼の季節であるがゆえに、神の現実そのもの、神の秘義を、私たちに明らかに示すことができます。

すべての始まり

2 神はここにまします。神性のうちに、父と子と聖霊との言

い尽くせぬ交わりのうちに、永遠におどまりになります。そればかりか、神は満ちあふれる完全な自由と愛に動かされ、創造主として、また救い主としてイニシアティブをおとりになりました。言わば、御自身の神性という枠を越えてしまわれたわけです。その神性は、外ならぬ神の全能と愛のうちに大いに発揮されていますが。

このようにして待降節は、私たちに、世の始まりについて、歴史全体の始まりである創造の秘義について、物語ってくださいます。この世の創造、とりわけ人間が造られたとき、神の最初の訪れがあったのです。

創造主が「あれ!」(存在せよ)とおおせになるまでは何物も存在しませんでした。この神の訪れは被造物の存在の内奥に刻み込まれています。(保存は創造の継続である。) 万物を

を創造なさった力で、神は万物の存在をお保ちになります。すべて自ら立って存在できぬもの、移ろい変化するものを、支えてくださるのです。

神秘につつまれた創造のわざは、何らかのかたちでつねに教会の典礼中に見られます。そしてそれは、年間のあらゆる祝祭日を通して、典礼のしるし全てのもともとの根本的な部分を占めているとは言え、とくに際立つのが待降節の典礼においてなのです。この時、私たちの心は神の創造と救いの「始まり」そのものに向けられます。始まりをもたぬ唯一人の方、神が来られる! 神の訪れは、すなわち万物の始まりです。神はその自由と愛と共に、得も言われぬ父と子と聖霊の交わりのうちに、万物のうちにおいてになります。

神はつねに勝利者

3 創造の始まりの深みから、そしてとくにその極みである人間の創造から、救いの秘義は始まります。それはすでに、聖書のいわゆる人間の誕生のうちに含まれています。エロヒム・ヤーウエ(神)は「男と女を造られた。」(創世1・27) 創

世の書の初めの章を読めばこの点は明らかです。救いの到来は、人祖の犯した罪によってもさえぎられませんでした。ある意味で、その罪と共に救いの具体的な展望がひらけたわけです。こういう展望に導かれてるのが救いの歴史であります。そしてこの救いの歴史は、一人ひとりの人間、あらゆる民族、あらゆる世代の歴史を通して発展してゆくのです。

* * *

救いの到来は「被造物が反抗しても、神はくじけない」ことを意味すると言えましょう。まず目に見える霊が、次いで見えるもの、すなわち人間が、神に逆らいます。始めに天使、次に人間が自由意志で行なった、神への反抗、被造物による造物主の拒否、あるいは救い主の愛に対する拒絶とも言うべき反抗、これらる前にしても、神はあきらめたりなさ

いません。愛は決して打ち負かされないので。神は御存じです。三位一体の神、永遠の愛は知っておいでです。創造と救世の力は、ただ御自身にのみ属することを。(…)

4 神の救いの到来は、典礼上の待降節を通して現れます。

永遠のみことばが聖霊によって処女マリヤからお生まれになる年ごとの祝日に、私たちの目に見えるものとなるのです。

救いの到来、神の訪れ、絶えざる神の訪れ。

歴史上の大きな出来事の中に、何よりもまず密かな心のなかに、良心の内に、おいでになる。隠れたる神がおいでになる。私たちは一人ひとりに向かって、「私は主、あなたの右手をとった、あなたの神である」とおおせられる。そもその始めから、神はその業



で、どれほど人間を助けてくださることでしょう。創世の書の最初のページから福音書に至るまで、神が御自分の右手で人間の手をとり、導いてくださるさまが読み取れます。実に、人間が何度も手をふりほどき、しばしば「神から離れ」、神に逆らって「勝手にやりたいのだと叫んだにもかかわらず。

人間は独立独歩の自由な境地を求めます。人間は盲目のため、自由は永久に私たち一人ひとりのものであること、人間は自由な被造物であることがわからないのです。これが愛の定めです。この定めを越えるとき、私たちに与えられた自由は反自由と化してしまいます。他の人々と私たち自身に対する束縛のもととなるのです。このような「まちがった自由」を経験してサルトルは叫びました、「他人は地獄だ」と。そうです。つまりところ、地獄とは使道を誤った自由の外なりません。愛に反した自由。このような自由は自由に反するものです。地獄とは、アンチ(反)自由のことなのです。(…)

5 信仰に対して目を開きましょ。洗礼を受けたときからあなたの中に聖霊の賜すべてを自覚してください。

私たちの住むこの世界で神の到来が続いています。創造と救いの到来が……。神の国、天の国は、私たちの住むこの世界に根ざしているのです。出会いのために私たちの方から出かけましょ。神の国は「暴力によってそれを奪う」人を待っています。(一九八五・十二・十三)

諸宗教全ての

核心に関わる問題

結婚と家族に関する研究所とローマ聖十字架アカデミック・センターの共催による本学会に参加される方を心から歓迎いたします。参加者のみなさん、とくにモンシニョール・カルロ・カファラ師とモンシニョール・アルバロ・デル・ポルティエリヨ師と共にこの学会開催のために尽力して下さる方々に御挨拶申し上げます。

ある人々は、絶対的な倫理価値というものはあり得ないと言います。こういう考えは次のような事実によくあらわれています。胎児の人間としてのねうちが否定される、基本的人権を永久に拒否される人や生活必需品を不当にも破壊される人がいる、など。

さらにひどいことも起こっています。人々は、真理においてのみ救いを得ることができるといふ事実を疑い始めました。真理のもつ救いの力が疑問視されているのです。人々は、客観性を無視して自分自身で善か悪かを決定するという自由のみに信をおいてしまっています。この相対主義は、神学の分野に入ると倫理(道徳)法によって人間を導く神の知恵を信頼しない態度になってあらわれます。道徳(倫理)法の規範(命令)に對抗して、いわゆる具体的な状況ばかりが重要視され、人々は、自分

とってつねに本物の善である神法を受けつけなくなってしまうのです。

倫理について
考察を加えるときの条件

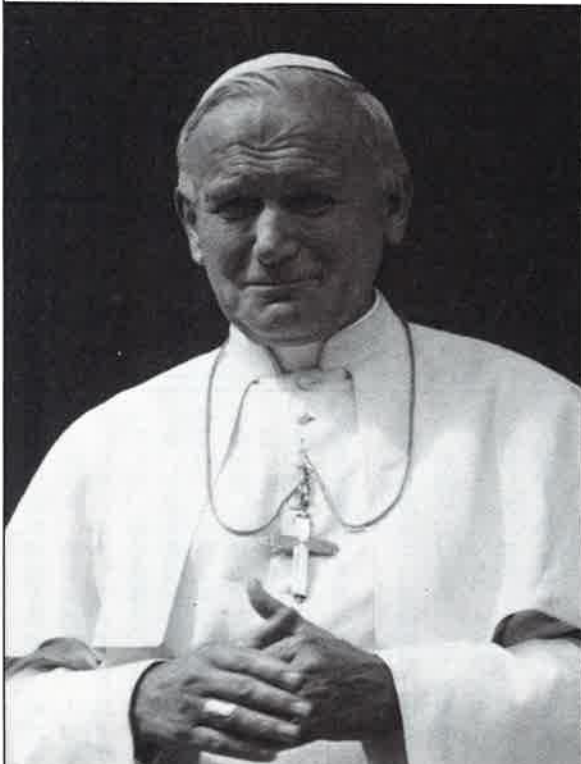
教会は、倫理・道徳について厳密な考察を加えるべき時にいると考えられています。ただしそうするときには、種々の条件を満たさなければなりません。そのうちのいくつかを思い出しておきましょう。まず、倫理的な善悪は、他の善悪とちがって、独特な性格をもっている点を指摘しな

ればなりません。私たち人間の行為の倫理的な性質というものを、非倫理的な(倫理と無関係の)面での向上や改善と同じものであると考える傾向があります。しかし、そうなるとうずれば倫理・道徳の概念そのものを破壊してしまうことになる。ひとたび倫理概念が否定されるや、今度は、いつでもどこにおいても善であるもの、あるいは悪であるものの存在そのものが否定されてしまいます。すでに使徒勸告『和解と悔悛』(17番参照)でこの点を指摘したように、教会はずっとこのような考え方を否定してきました。ところで、ど

こでも善、あるいは悪であるもの(存在)については、啓示の光を受けなくても、理性の働きだけで、明らかに知ることが出来ます。この点はキリスト教だけでなく、諸宗教全体の核心に関わる問題でしょう。

人間はペルソナとして神と交わるよう召されています。人間は神の摂理の対象であります。そしてその人間(ペルソナ)の心の中に法が刻みつけられてあります。(ローマ2・15、Uff.) この法は、人間が作ったものではないけれども、人間が人格をもつ存在であることを保証してくれるのです。人間は、神に造られ、目的を与えられ、他の何ものにも優る尊厳を与えられています。

心に刻み込まれた法は、色々と変化する歴史的な状況に制約される規範だけを含んでいられるものではありません。それだけでなく、何ものにも制約されない不変かつ明確な倫理規範も含まれています。みなさんはこの学会で色々な倫理規範について考察なさるでしょう。例えば、妊娠中絶、罪なき者の直接的な殺人に関する禁止法、など。このような倫理規範を否定できるのは(…)人間のペルソナおよび人間の不変の本性に関する真



説教・講話・書簡等の抄訳

理を否定する人だけです。本当の人間学を基礎にした倫理を考えなければなりません。ところで、人間学の底にあるのが、キリスト教の考えの中心、すなわち創造についての形而上学なのです。倫理の危機は人間学の危機であります。人間学の危機はまた形而上学の危機が原因となっております。倫理と人間学、形而上学——この三つを分離させるのは大変なまじがいでです。

国の運命は

健全な家庭にかかっている

1 家庭、そして家庭をつくる基盤である結婚は、あらゆる社会的・宗教的共同体の大切にするべきものです。「男性と女性の結びつきが人間の最初の共同体(交わり)をつくる」という事実を認めるなら、結婚と家庭生活のために役立つイニシアティブはすべて、種々さまざまな共存形態を益し、活気づけるものであること、究極的には人類社会全体をうるおすものであるということがおわかりいただけるでしょう。

規則を導入するようなことがあれば、秩序の乱れを引き起こすことになり、その結果、家庭はだめになります。そればかりか、社会全体の質は落ち、共通善に多大な貢献をする道徳的価値観が失われ、人類の共同生活のめどいは崩れてしまいます。実際、直接に家庭生活を害するものが社会を益するはずはありません。

徳と正義

2 政府、また人間や社会が本当に必要とするものを満たさんと働く科学者の方々に、家族の権利に関して、国法と教会の法との真の協力とは何を意味するかを理解していただきたいと思います。第二パティカン公會議は次のように述べていま

3 家族の権利はただ単に霊的・宗教的な事柄であるばかりではありません。従って、家族の権利は社会に深く関わる重大な問題ではないかのごとく、国や社会がこれを切り捨てることなどできません。

4 最後(…)この外にも多くの問題があることを忘れないうでおきたいと思えます。女性と子供、

自然倫理は神学的倫理につながってはじめて完成されます。あらゆる現実の基準となる知恵、つまり被造物が真であると言えるための基準とは、すなわち、人間となったみことば、死去し、復活した主キリストであります。キリストにおいて、キリストを考えて、人間は造られました。御父は御自分の自由な裁量によって、私たちが御子において三位一体の神

の生命に参与できるようにしてくださったのです。というわけで神学的倫理のみが、人間に関する倫理の諸問題にまったく真実の答えを与えているのです。

ましてやただの意見ではありえないのです。教導職には「真理の確かな賜」(『啓示憲章』8)が与えられていますから、神学者は教導職に従わなければなりません。

クの考えを否定するのと同じであります。それだけでなく、教会が教える使命を与えた教師から教会の教えを教わる権利を、信者のみなさんから奪い去ることになってしまいます。教会の教師は、自分の意見ではなく教会の教えを伝えるよう任命を受けているのですから。(…) (八六・四・十) (少しなりともわかり易くするため、とどこころで、言い換えたり省略したりしてあります。)

たしかに、家庭に関する根本的な価値を促進するのは教会の果たすべき責務です。しかし、結婚の最も重要な善であるこのような権利を擁護する責務は、教会だけでなく、国々の為政者の手にもゆだねられているのです。

人類共同体の運命は、家庭が健全であるか否かにかかっています。万一、国や社会が健全な家庭の社会への貢献を無視するような法律を作るなら、また、性や結婚の倫理的な価値に對して無関心な傍観者のごとくふるまうならば、そのとき社会は、人間の諸価値を認め、擁護するどころか、道徳の崩壊をひき起こしてしまいうでしょう。同様に、自然法に反するような夫婦行為を通して生命を伝達することについても、放任的な態度をとるならば、たとえそれによって当座の問題が解決されることであっても、結局のところ、結婚の本質と尊厳に影を投ずることになってしまします。

高年齢者の権利、さらに家族が全体として持つべき権利について、私は使徒的勧告『ファミリアリス・コンソルツィオ』の中で述べました。また教皇庁の『家族の権利憲章』でも扱われています。

これらはどれも重大ですが、ここでは、子供の教育という親の権利であり義務でもある事柄について強調しておきましょう。

子供たちが成熟した人格をもつよう教育すること、子供に生命の基本的な価値を教えること、これこそ両親の負うべき重大な責任です。第二パティカン公會議は次のように述べています。「教育者としての両親の務めは非常に重大であって、それが欠ける場合、その補充はほとんど不可能である。子供の個人的・社会的な教育を促進するような、神と人々に対する愛と敬虔の心で満たされた家庭環境を作り出すことは両親の義務だからである。したがって家庭は、あらゆる社会が必要とする社会上の諸徳を教える最初の学校である。」(『キリスト教的教育に関する宣言』3) (一九八六・四・二十六)

今月のおすすめ
 オブス・テイ創立者小伝 (定価一八〇〇円 千三〇〇円)
 神の朋友 エスクリバー著 (一六〇〇円 千三〇〇円)
 知識の香 エスクリバー著 (二八〇〇円 千三〇〇円)

不変の教え

天使の創造

①

神の宮廷に侍する天使



1 世界の創造主である神についての要理を結びとする前に、神の啓示の中にあるもう一つの明らかな点について考えておかねばなりません。純粹に靈的な存在、聖書に言う「天使」たちのことです。天使の創造は特にニケア・コンスタンチノープル信経にはっきり示されています。「われは信ず、唯一の神、全能の父、天と地、見ゆるもの、見えざるもの、すべての造り主を。」周知のとおり人間は、被造物のなかで

信者が結婚と家庭に関する教えをよく守れば、正義を実現させる徳、例えば、忠実、人格の尊重、責任感、相互理解と助け合いの実行が容易になる。(三頁参照)

たぐい位置を占めています。肉体をもっている点では見える世界に属し、肉体に生命を与える精神と靈魂をもっている点では、見えるもの見えざるものとの、いわば境界線上にいます。啓示の光をうけて教

2 昔も今も、天使に関しては、すぐれた論もあれば馬鹿げた意見も出ています。時にはひどい混乱も。本来、教会の信仰に無関係なものが教会の信仰であるかのように思われたり、逆に啓示された真理の重要部分が軽視されたりしている。こととは否定できません。聖書がふつう「天使」と呼ぶ靈的被造物の存在は、すでにキリストの時代にサドカイ派の否定するところとなっていました。(使徒行録23・8参照) 一つの時代にも、唯物論者と合理主義者たちは天使を認めようとしません。しかし、現代のある神学者が看破したように、「天使を反故にしたければ、聖書と救いの歴史全体をそっくり書き直さなければならぬ。」(A. Winkhofer, Die Welt der Engel, Ertal 1961, P. 144, note 2; in Mysterium Salutis, II, 2, P. 726)

この点について教会の聖伝は完全に一致しています。教会の信経は、基本的には、聖パウロがコロサイ人

3 キリストの「主権」について考えると、良い天使と悪い天使両方の存在とその活動に関する事実が決して神のおことばの中心部分ではないことがわかります。第二バテイクン公会議の『神の啓示に関する教義憲章』の2番にあるように、啓示の中で神はまず、「人々を自分との生命の交わりに招き、これにあずからせるために、(…)人間に話しかけ」られました。ですから、「神と人間の救いに関する深遠な真理」こそが啓示の主な内容であり、それは全啓示の充満であるキリストにおいて「輝き出」ています。(『神の啓示に関する教義憲章』2参照) 天使についての真理は、ある意味で副次的なものではありませんが、啓示の中心をなす部分と切り離して考えることはできません。「見えるもの」と「見えないもの」とを含む全被造物および、人類の歴史における神の救いの

物の子によって造られた。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、見えないもの、玉座も、権勢も、能力も、みな子によって子のために造られた。(コロサイ1・16) つまり、みことばであり、永遠に御父と同質であるキリストは、すべての被造物の長子(コロサイ1・15)です。すべての被造物の「すみの親石」として、宇宙の中心におられるのです。(…)

4 創造に関するこれらすべてのことは神の摂理の秘義の中に組み入れられていると啓示は教えます。第一バテイクン公会議は、これについてはっきりと述べています。「神は自分が造ったすべてのものを摂理によって保ち、治める。『この世の果てから果てまでその力を及ぼし、すべてのものを巧みに司り』(知恵の書8・1参照)、また被造物の自由な行動も含めて、『神の前で隠れることができるものは何一つない』(ヘブライ14・13)。」

こうして摂理は、人間以上に知的で自由な存在である純粹な靈の世界をも自らのうちにつつま込んでいます。聖書には天使について語る重要な箇所があります。天使と呼ばれる被造物に関しては、実に不思議な、しかし現実のドラマも啓示されています。強くまた優しく、あらゆるもの

のを父と子と聖靈の国の完成へといざなう神の知恵から、何者も逃れることはできないのです。

神の知恵である摂理は、特に純粹に靈的な存在が造られたという事実

ヨハネ・パウロ二世 教皇様の声

年間購読者募集中 (1月~12月)

日曜日ごとの「お告げの祈り」の時や水曜日ごとの一般謁見の時を始め教皇さまは、あらゆる機会をとらえて教えを伝えておられます。本紙は、ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのままわかりやすい日本語に訳して伝える月刊紙です。

年間購読申込要領

■教会でまとめて、お申込みの場合
教会で2部以上まとめてお申込みになると送料が無料になります。年間購読料は800円です。教会名・ご担当者名・部数を明記の上、お申送ください。

■個人で直接お申込みの場合
1,300円(年間購読料800円+送料500円)を郵便振替にてお送り下さい。

見本紙は40円切手封筒の上、ご請求ください。

財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6 ☎0797-31-3452

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部七十円送料四十円 一年予約八〇〇円送料五〇〇円 二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 神戸 3-72393